

求める技術提案書及び審査基準について  
(案)

## 求める技術提案書（案）

求める技術提案	記述する内容
施設計画の概要 (A3×3 枚以内)	○構造、階数、延床面積、建物高さ、建ぺい率、容積率、客席数 ○施設計画の概要と特徴等
基本図面 (A2×12 枚以内)	○配置図（外構図を兼ねて作成）(1/2,000×1 枚) ○平面図（主要階）(1/1,000×2 枚以内) ○平面図（全階）(1/2,000×2 枚) ○立面図（1 面以上）(1/1,000×1 枚) ○断面図（1 面以上）(1/1,000×1 枚) ○日影図（等時間日影図）(1/2,000×1 枚) ○イメージパース（全体鳥瞰、全体アイレベル、内観等）(1 枚) ○周辺からの動線計画図 (1/2,000×1 枚) ○その他、技術提案の特徴を示す任意の図面（縮尺任意×2 枚以内）
業務の実施方針 (A3×6 枚以内)	○施設整備にあたっての基本的な考え方（重視すべき事項） ○プロジェクト・マネージャーの下、コスト、工期を管理して事業を進めるマネジメントの実施方針 ○設計段階、工事段階の業務の実施方針 ○設計段階、工事段階について、チーム編成、各担当者の能力や実績・資格
事業費 (事業費提案書（指定様式）及び A3×3 枚以内)	○事業費提案書（指定様式） ・事業者としての事業費上限額、内訳（工事種目ごとの事業費） ・提案した総事業費内で事業実施を実現するための具体的方策 ・更なる事業費削減に向けた工夫 ・削減方策を最大限実施した場合の事業費の見込み ○主要工種（例：スタンド、屋根等）のコスト計画に関する考え方 ○事業期間を通じた、事業費抑制のためのコスト管理計画・手法の考え方
工期 (工程計画（指定様式）及び A3×3 枚以内)	○工程計画（指定様式） ・設計、施工技術検討、建設、工事監理の工程 ○工期を短縮するための具体的方策、工期・完成期限*及び設計工程表、総合工事工程表及び総合施工計画 ※事業の期間・完了日及び設計業務の期間・完了日、工事施工等業務の工期・完了日（建物の完成期限であり、引き渡し日）について記載。 ○主要工種（地下躯体、スタンド、屋根等）の工期短縮に関する考え方 ○事業期間を確実に遵守するための工程管理計画の考え方（設計、施工共に）
維持管理費抑制 (A3×2 枚以内)	○維持管理費を抑制させるための設計における具体的方策
ユニバーサルデザインの計画 (A3×2 枚以内)	○世界最高のユニバーサルデザイン施設とするための具体的方策
日本らしさに配慮した計画 (A3×3 枚以内)	○日本の伝統的文化を現代の技術によって新しい形として表現する方策 ○日本の気候・風土、伝統を踏まえた木材利用の方策
環境計画 (A3×3 枚以内)	○明治神宮外苑の歴史と伝統ある環境や景観等に調和するための具体的方策 ○環境負荷軽減のための具体的方策・設備計画
構造計画 (A3×3 枚以内)	○屋根を含む構造計画
建築計画 (A3×3 枚以内)	○観客席の形状及び観客の動線計画、避難計画等を含む建築計画

※ 文字の大きさは 10 ポイント以上（イラスト等に含まれる文字についてはこの限りでないが、判読が困難である場合は当該部分を評価できないことがある）とする。

# 技術提案書の審査基準（案）

技術提案の審査は、応募者から提出された技術提案書を総合的に用いて行う。

必須項目：要求水準書の基礎事項（施設規模や工期、事業費等）を満たしているか確認する。  
 評価項目：発注者が特に重視するコストや工期の縮減、ユニバーサルデザインなどについて評価する。

※ 採用した評価項目の技術提案については、契約書に添付し、受注者は技術提案に基づいた業務の履行を行うものとする。

## ○必須項目

下記の審査基準を充足している場合、適格とする。必須項目を1項目でも充足していない場合は失格とする。

必須項目	審査基準
施設計画*	事業計画地内にて配置計画がされていること。
	延床面積や客席数が要求水準を満たすこと。
	施設規模が関係法令・都市計画へ適合していること。
	建物の屋根の覆う範囲が要求水準を満たすこと。
事業費	総事業費が発注者の指定する上限額未満となっていること。
工期	建物の完成期限が平成32年4月30日以前となっていること。

※ 施設計画については、技術提案の一部が審査基準を充足しているか判断できない場合でも、技術対話により審査基準を満たす見込みが高いと考えられる場合については、必須項目を充足しているとみなす。

## ○評価項目

評価項目		評価基準	配点（案）
業務の実施方針 (20)	業務の実施方針	業務内容の理解度（整備すべき施設や、工期遵守・事業費上限額遵守を含め、本事業実施における重要事項の理解度）	20
		重要事項を確実に担保し、確実に本事業を遂行するための取組体制、品質管理の考え方、配慮事項等の妥当性	
コスト・工期 (80)	事業費の縮減	事業費の縮減の実現性（事業費の抑制幅及び事業費縮減策の確実性）	30
	工期短縮	工期短縮の実現性（工期の短さ及び工期短縮策の確実性）	30
	維持管理費抑制	維持管理費の抑制策の的確性	20
施設計画 (50)	ユニバーサルデザインの計画	提案の的確性、独創性、実現性について総合的に評価	10
	日本らしさに配慮した計画		10
	環境計画		10
	構造計画		10
	建築計画		10
合計			150

評価項目ごとに、原則として各項目の配点に6段階の評価に応じた係数を乗じたものを点数とする。

$$\underline{\underline{\text{配点} \times \text{係数} = \text{点数}}}$$

	評 価	係数
A	特に優れている	1.0
B	優れている	0.8
C	やや優れている	0.6
D	普通である	0.4
E	やや劣る	0.2
F	評価対象となる提案なし	0

なお、事業費の縮減及び工期短縮の評価に当たっては、定量的な指標（事業費の抑制幅、工期の長さ）と、定性的な指標（事業費縮減策の確実性、工期短縮策の確実性）を踏まえて評価を行う。

点数の合計点が高い者から順位を付け、最も優れた技術提案書を選定する。